

令和 3 年 5 月 14 日現在

機関番号：12601

研究種目：新学術領域研究(研究領域提案型)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H06395

研究課題名(和文)思春期主体価値・総括班

研究課題名(英文)Organizing team for Personalized value development through adolescence

研究代表者

笠井 清登(Kasai, Kiyoto)

東京大学・医学部附属病院・教授

研究者番号：80322056

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 42,800,000円

研究成果の概要(和文)：思春期主体価値の観点から人生行動を科学的にとらえる教科書を東京大学出版会より出版した。他領域との連携としては、特に「共創言語進化」領域(岡ノ谷一夫領域代表)との連携をさらに強化し、合同若手合宿を行うとともに、上記書籍において岡ノ谷が編者に加わった。さらに本研究で得られた成果をもとに、心理・社会福祉領域の専門職教育のプログラムを開発・出版し、文部科学省・高度医療人材養成プログラムとして社会還元に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

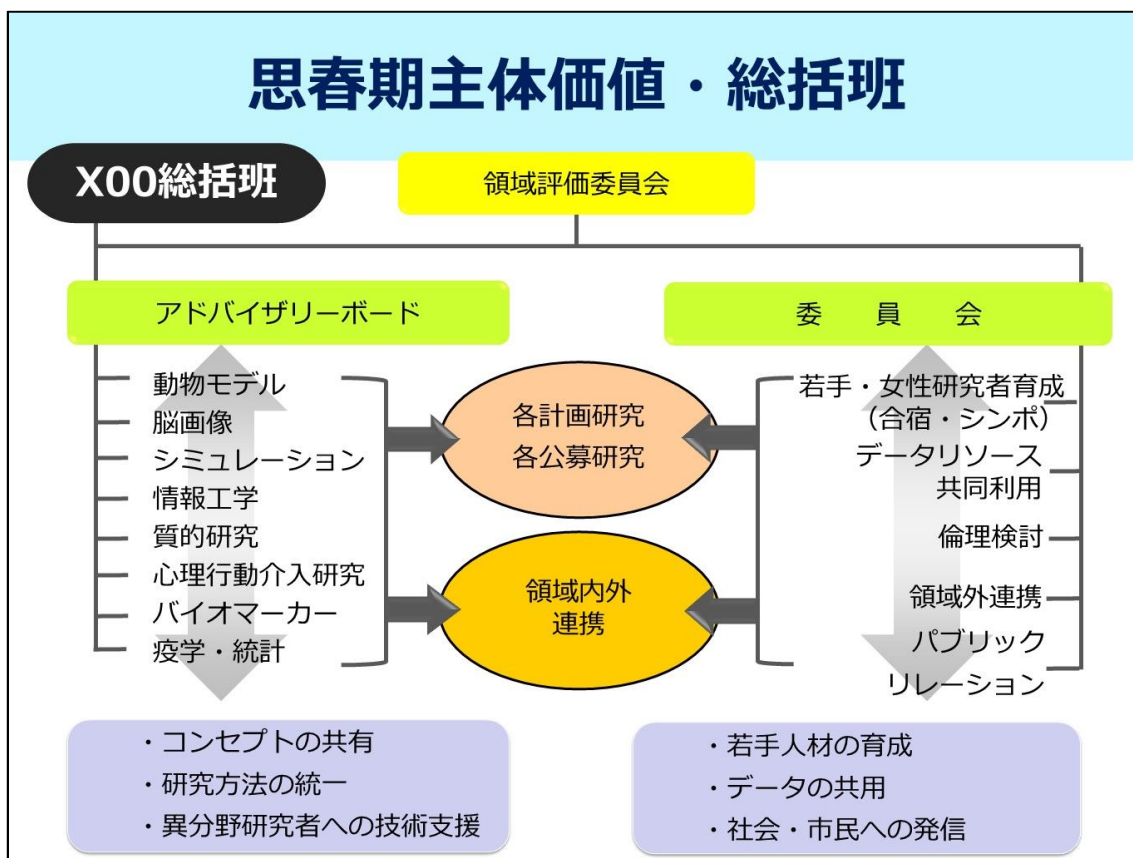
本研究で得られた思春期の主体価値の形成の長期的人生行動における重要性という成果をもとに、心理・社会福祉領域の専門職教育のプログラムを開発・出版し、文部科学省・高度医療人材養成プログラムとして社会還元に努めた。また、障害のある人が医療従事者・医学研究者となり、医療・医学における共同創造を実現するため、東京大学に医学のダイバーシティ教育研究センターをスタートさせるなどの社会・教育への還元の大きな成果を挙げた。

研究成果の概要(英文)：We have published a textbook from the University of Tokyo Press that takes a scientific look at life action from the perspective of adolescent personalized values. As for collaboration with other fields, we further strengthened our collaboration with the "Evo-linguistics" field (project leader: Dr. Kazuo Okanoya), holding a joint young researchers' camp (video conference), and Dr. Okanoya joined the editorship of the above book. Furthermore, we developed and published a program for professional education in the fields of psychology and social welfare based on the results of this research, and worked to return the results to society as part of the Advanced Medical Human Resource Development Program of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology.

研究分野：精神神経科学

キーワード：思春期 主体価値 人生行動 基底生活行動

1. 研究開始当初の背景



本領域は、人間が人生の長期的生活行動をどのように選択し、個人のウェルビーイングや社会の精神的豊かさを発展させるかという問題を、思春期から形成される主体価値 personalized value (=一人ひとりの人生における長期的行動をその人らしく生じさせている個人内駆動因)に注目して理解する、新しい学問分野創出を目指す。学際的諸研究分野を融合させ、主体価値の形成発展過程・脳基盤を解明し、その充実に向けた思春期からの方策提起を目標とする。

現代社会では、少子高齢化社会を支えるべき若者が活力や希望をもちにくく、無気力・引きこもりなど社会病理が深刻化している。また、それがさらに少子化を加速化させるという負の連鎖も危惧される。このような喫緊の社会的課題を受けて、応募者(笠井)は、H23-27の新学術領域『精神機能の自己制御理解にもとづく思春期の人間形成支援学(略称:「自己制御精神領域」)』で領域代表を務め、日本に総合人間科学としての思春期学を立ち上げ、これを格段に発展させるべく、本領域の着想に至った。

2. 研究の目的

本領域『脳・生活・人生の統合的理解にもとづく思春期からの主体価値発展学』は、ヒトが人生の長期的行動をどのように自ら選択し、個人のウェルビーイングや社会の精神的豊かさを発展させるかという問題を、思春期から形成される《主体価値》(personalized value)に注目して理解する新しい学問分野の創出を目指すものである。領域全体の研究方針の策定、班活動の企画調整、連携研究の調整、研究評価、社会・国民への成果発信等の有機的・効率的マネジメントのため、本総括班を組織する。

3. 研究の方法

#### 【総括班の構成】

代表者（笠井）が全体を統括し、領域評価委員会（外部委員）による研究評価・助言を得ながら活動を進める。総括班の連携協力研究者ら（主に各計画研究の代表者・分担研究者で構成）が、アドバイザリーボードと委員会を構成し、領域を適切に運営する。

#### 【アドバイザリーボード】

アドバイザリーボードは、専門学術グループから構成され、諸分野間における領域内のコンセプト共有や、研究方法の統一を監督する。具体的なグループは、動物モデル、脳画像、シミュレーション、情報工学、質的研究、心理行動介入研究、バイオマーカー、疫学・統計の8つである。各計画・公募研究において、デザイン・実験手法・解析方法などについての指導・助言・設備提供・解析受託を通じて、領域の研究支援活動を効率的・効果的に行う。

#### 【委員会】

委員会はテーマ別グループから構成され、他研究領域との連携や、社会・国民への発信を主たる目的とする。具体的なグループは、若手・女性研究者育成、データリソース共同利用、倫理検討、パブリックリレーション、領域外連携の5つである。例えば、若手・女性研究者育成委員会は若手研究者合宿等をコーディネートし、新しい学問領域を担う若手・女性研究者を育成する。領域外連携は、異なる学問分野や研究領域との連携を図る。パブリックリレーションは、公開シンポジウムの開催等を通じて研究成果を社会や教育界などに発信する。また、アドバイザリーボードと委員会は互いに連携しながら、各計画研究・公募研究が円滑に進行するよう、学術・研究体制の両面から支援活動を行う。また、社会国民への情報発信と対話を行いつつ、社会からのフィードバックを研究体制に反映させていく。

### 4．研究成果

2016年にスタートした本領域であるが、総括班によるマネジメントのもと、当初掲げた目標に沿って順調に研究が進捗し、2018年度に行われた中間評価においてはA評価を受けた。それらのコメントに沿って後半の二年間の研究を進めた。これらの成果を以下にまとめる。

A01においては、主体価値の神経回路基盤についてのマウス研究を柳下らが進めてきたが、その成果をNature誌に発表することができた[1]。すなわち、ドーパミンD1受容体機能により汎化された価値予測が、実際の報酬状況により価値記憶を精緻化（弁別）することにD2受容体機能が関与することが見出された。本研究は、人間の思春期発達過程における社会構造ストレスがドーパミンD2受容体機能に負荷をかけ、思春期精神病理の発現につながるという、新たな精神疾患病態仮説をもたらした。この仮説にもとづき、柳下らが基底核前頭葉回路に関するさらなる研究を進めており、画期的な成果につながることを期待される。

B01においては、これまで脳科学の対象となっていなかった、日常生活習慣的行動に対して、主体価値 基底生活行動 脳可塑性のスパイラルモデルという、独創的な仮説を設定して研究をスタートさせたが、村井らのグループを中心に、MRI計測と心理・行動計測を組み合わせた実証的論文を続々と報告している。本研究により、生活習慣病や行動嗜癖などについての社会的、医学的介入について新しい視座がもたらされるばかりでなく、今般の新型コロナウイルス感染症などの人間の生活様式を根本的に変えてしまうような大きな社会変動のあとの人間のレジリエンス、回復を考えるための科学的基盤ともなっていくであろう。

C01においては、東京ティーンコホートが国際連携も含めて極めて順調に進んだ。西田、山崎、川上が、それぞれ主体価値をテーマにして論文を次々に発表しており、personalized valueの構成概念を国際科学界に発信できた。もっとも画期的な成果は、山崎らによる英国1946年出生

コホートとの共同研究である[2]。山崎らは、思春期の時点で抱いていた「興味や好奇心を大切にしたい」という価値意識（内発的動機）が強いと、高齢期の幸福感が高まり、「金銭や安定した地位を大切にしたい」という価値意識（外発的動機）が強いと、幸福感が低くなることを明らかにした。加えて、自己コントロール力が低く生きづらさを抱えやすい若者が、外発的動機が強い場合は、高齢期の幸福感の指標である人生満足感が顕著に低くなることが分かった。本研究結果から、若者に対して経済的な成功や安定を目指すように強調するよりも、自身の興味や好奇心をはぐくむ教育環境を作っていくことが、活力ある超高齢化社会の実現に向けて重要な対策であると示唆された。本研究成果は、国際共同研究を通じて、2011-2015 新学術領域のテーマであった自己制御（self-regulation）と、本領域のメインテーマである思春期主体価値との相互関係と、そのライフコース全般に渡る影響を示した画期的な成果である。

D01 においては、精神疾患を含め様々な困難にともなう主体価値の不調からの回復の脳・心理過程について、量的、質的な研究成果を挙げることができた。これらの成果を社会・教育に還元する画期的な成果として、領域代表者の笠井は、2022 年度からの新指導要領の高校保健体育教科書で、精神疾患、社会的包摂、思春期の発達を執筆し、領域で得られた思春期の脳とこころの発達についての成果を盛り込むことができた[3]。

X00 総括班においては、領域の成果をもとに、思春期主体価値の観点から人生行動を科学的にとらえる教科書を 2020 年度中に東京大学出版会より出版することができた[4]。他領域との連携としては、特に「共創言語進化」領域（岡ノ谷一夫領域代表）との連携をさらに強化し、2020 年度中に合同若手合宿を行うとともに、上記書籍において岡ノ谷が編者に加わった。さらに本研究で得られた成果をもとに、心理・社会福祉領域の専門職教育のプログラムを開発・出版[5]し、文部科学省・高度医療人材養成プログラムとして社会還元を努めた（2020 年度の本プログラム中間評価は最高の S 評価）。また、障害のある人が医療従事者・医学研究者となり、医療・医学における共同創造を実現するため、東京大学に医学のダイバーシティ教育研究センターを 2021 年 4 月からスタートさせるなどの社会・教育への還元の大きな成果を挙げた。

#### 【文献】

- [1] Iino et al., *Nature*, 2020
- [2] Yamasaki et al., *Journal of Positive Psychology*, 2020
- [3] 笠井ら：新高等保健体育．大修館書店、2021.3 文部科学省検定済
- [4] 笠井ら編：人生行動科学としての思春期学．東京大学出版会、2020
- [5] 笠井ら編：こころを使うということ．岩崎学術出版会、2020

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計78件（うち査読付論文 73件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 40件）

1. 著者名 笠井清登	4. 巻 38
2. 論文標題 統合失調症	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clinical Neuroscience	6. 最初と最後の頁 232-234
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠井清登	4. 巻 1
2. 論文標題 統合失調症	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医事新報 私の治療（第3版）	6. 最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠井清登	4. 巻 29
2. 論文標題 思春期の脳とこころ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子どもの心とからだ	6. 最初と最後の頁 374-377
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊倉 陽介、金原 明子、金田 渉、笠井 清登	4. 巻 62
2. 論文標題 特集 精神科臨床における共同意思決定(SDM) 共同意思決定支援ツール「質問促進パンフレット」と「診察サブリ」の作成の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 1359-1367
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1405206199	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠井清登	4. 巻 122
2. 論文標題 これからの心理職のアイデンティティとは 『こころを使うということ』 刊行に寄せて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学術通信	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kirihara Kenji, Tada Mariko, Koshiyama Daisuke, Fujioka Mao, Usui Kaori, Araki Tsuyoshi, Kasai Kiyoto	4. 巻 11
2. 論文標題 A Predictive Coding Perspective on Mismatch Negativity Impairment in Schizophrenia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2020.00660	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Endo K, Yamasaki S, Ando S, Kikusui T, Mogi K, Nagasawa M, Kamimura I, Ishihara J, Nakanishi M, Usami S, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A.	4. 巻 17
2. 論文標題 Dog and Cat Ownership Predicts Adolescents' Mental Well-Being: A Population-Based Longitudinal Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph17030884	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugimoto N, Nishida A, Ando S, Usami S, Toriyama R, Morimoto Y, Koike S, Yamasaki S, Kanata S, Fujikawa S, Furukawa TA, Sasaki T, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K.	4. 巻 53
2. 論文標題 Use of social networking sites and desire for slimness among 10-year-old girls and boys: A population-based birth cohort study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Eating Disorders	6. 最初と最後の頁 288-295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/eat.23202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kotake R, Kanehara A, Miyamoto Y, Kumakura Y, Sawada U, Takano A, Chiba R, Ogawa M, Kondo S, Kasai K, Kawakami N.	4. 巻 20
2. 論文標題 Reliability and validity of the Japanese version of the INSPIRE measure of staff support for personal recovery in community mental health service users in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-020-2467-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Kirihara K, Usui K, Tada M, Fujioka M, Morita S, Kawakami S, Yamagishi M, Sakurada H, Sakakibara E, Satomura Y, Okada N, Kondo S, Araki T, Jinde S, Kasai K	4. 巻 265
2. 論文標題 Resting-state EEG beta band power predicts quality of life outcomes in patients with depressive disorders: A longitudinal investigation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 416-422
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2020.01.030	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, et al.	4. 巻 Epub ahead of print
2. 論文標題 White matter microstructural alterations across four major psychiatric disorders: mega-analysis study in 2937 individuals	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Molecular Psychiatry	6. 最初と最後の頁 883-895
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41380-019-0553-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ozawa S, Iijima Y, Ando S, Okada N, Kawashima T, Ohta K, Yamasaki S, Kasai K, Nishida A, Nakatani H, Koike S	4. 巻 Epub ahead of print
2. 論文標題 Development of the Brief Personal Values Inventory for sense of values. Japanese Psychological Research	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Psychological Research	6. 最初と最後の頁 eprint
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/479337	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Kirihara K, Tada M, Nagai T, Fujioka M, Usui K, Araki T, Kasai K.	4. 巻 Epub ahead of print
2. 論文標題 Reduced Auditory Mismatch Negativity Reflects Impaired Deviance Detection in Schizophrenia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Schizophrenia Bulletin	6. 最初と最後の頁 sbaa006
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/schbul/sbaa006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sasabayashi D, Takayanagi Y, Takahashi T, Katagiri N, Sakuma A, Obara C, Katsura M, Okada N, Koike S, Yamasue H, Nakamura M, Furuichi A, Kido M, Nishikawa Y, Noguchi K, Matsumoto K, Mizuno M, Kasai K, Suzuki M.	4. 巻 Epub ahead of print
2. 論文標題 Subcortical Brain Volume Abnormalities in Individuals With an At-risk Mental State	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Schizophrenia Bulletin	6. 最初と最後の頁 547-553
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/schbul/sbaa011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sawada K, Sakakibara E, Kanehara A, Koike H, Suga M, Fujieda Y, Miyamoto Y, Fukuda M, Kasai K	4. 巻 74
2. 論文標題 Is Utena's Brief Objective Measures (UBOM) useful in real-world behavioral assessment of functioning? Validity and utility testing in patients with schizophrenia.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 40-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12929	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murata Y, Fujii A, Kanata S, Fujikawa S, Ikegame T, Nakachi Y, Zhao Z, Jinde S, Kasai K, Bundo M, Iwamoto K	4. 巻 39
2. 論文標題 Evaluation of the usefulness of saliva for DNA methylation analysis in cohort studies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 301-305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Zhao Z, Jinde S, Koike S, Tada M, Satomura Y, Yoshikawa A, Nishimura Y, Takizawa R, Kinoshita A, Sakakibara E, Sakurada H, Yamagishi M, Nishimura F, Inai A, Nishioka M, Eriguchi Y, Araki T, Takaya A, Kan C, Umeda M, Shimazu A, Hashimoto H, Bundo M, Iwamoto K, Kakiuchi C, Kasai K	4. 巻 9
2. 論文標題 Altered expression of microRNA-223 in the plasma of patients with first-episode schizophrenia and its possible relation to neuronal migration-related genes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Translational Psychiatry	6. 最初と最後の頁 289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-019-0609-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakanishi M, Yamasaki S, Endo K, Ando S, Morimoto Y, Fujikawa S, Kanata S, Takahashi Y, Furukawa TA, Richards M, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A	4. 巻 14(9): e0222752
2. 論文標題 The association between role model presence and self-regulation in early adolescence: A cross-sectional study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0222752
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0222752. eCollection 2019.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura M, Takahashi T, Takayanagi Y, Sasabayashi D, Katagiri N, Sakuma A, Obara C, Koike S, Yamasue H, Furuichi A, Kido M, Nishikawa Y, Noguchi K, Matsumoto K, Mizuno M, Kasai K, Suzuki M	4. 巻 269
2. 論文標題 Surface morphology of the orbitofrontal cortex in individuals at risk of psychosis: a multicenter study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience	6. 最初と最後の頁 397-406
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00406-018-0890-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Kirihara K, Tada M, Nagai T, Fujioka M, Usui K, Koike S, Suga M, Araki T, Hashimoto K, Kasai K	4. 巻 208
2. 論文標題 Gamma-band auditory steady-state response is associated with plasma levels of d-serine in schizophrenia: An exploratory study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Schizophrenia Research	6. 最初と最後の頁 467-469
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2019.02.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Malda A, Boonstra N, Barf H, de Jong S, et al.	4. 巻 10
2. 論文標題 Individualized prediction of transition to psychosis in 1,676 individuals at clinical high risk: development and validation of a multivariable prediction model based on individual patient data meta-analysis.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 eprint
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2019.0034	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamasaki S, Ando S, Richards M, Hatch SL, Koike S, Fujikawa S, Kanata S, Endo K, Morimoto Y, Arai M, Okado H, Usami S, Furukawa TA, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A	4. 巻 206
2. 論文標題 Maternal diabetes in early pregnancy, and psychotic experiences and depressive symptoms in 10-year-old offspring: A population-based birth cohort study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Schizophrenia Research	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2018.12.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murata Y, Ikegame T, Koike S, Saito T, Ikeda M, Sasaki T, Iwata N, Kasai K, Bundo M, Iwamoto K	4. 巻 99
2. 論文標題 Global DNA hypomethylation and its correlation to the betaine level in peripheral blood of patients with schizophrenia.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Progress in Neuropsychopharmacology & Biological Psychiatry	6. 最初と最後の頁 109855
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pnpbp.2019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murata Y, Fujii A, Kanata S, Fujikawa S, Ikegame T, Nakachi Y, Zhao Z, Jinde S, Kasai K, Bundo M, Iwamoto K	4. 巻 39
2. 論文標題 Evaluation of the usefulness of saliva for DNA methylation analysis in cohort studies.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 301-305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okada N, Ando S, Sanada M, Hirata-Mogi S, Iijima Y, et al.	4. 巻 73
2. 論文標題 The population-neuroscience study of the Tokyo TEEN Cohort (pn-TTC): a cohort longitudinal study to explore the neurobiological substrates of adolescent psychological and behavioral development.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 231-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12814	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mori A, Kikuchi M, Okada G, Reed M, Takamura M, Michenthaler P, Takagaki K, Anna Handschuh P, Yokoyama S, Murgas M, Ichikawa N, Gryglewski G, Shibasaki C, Spies M, Yoshino A, Hahn A	4. 巻 13
2. 論文標題 Predicting ventral striatal activation during reward anticipation from functional connectivity at rest.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2019.00289	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shibata D, Ito K, Nagai H, Okahisa T, Kinoshita A, Aramaki E	4. 巻 13 (2)
2. 論文標題 Idea density in Japanese for the early detection of dementia based on narrative	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0208418
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0208418	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takagaki K, Okamoto Y, Jinnin R, Yokoyama S, Yoshino A, Kagawa F, Okamoto Y, Miyake Y, Yamawaki S	4. 巻 14
2. 論文標題 Effects of behavioral activation program without psychotropic medication treatment for depression in late adolescence: case report.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6. 最初と最後の頁 2159-5164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/NDT.S168077	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takagaki K, Okamoto Y, Jinnin R, Mori A, Nishiyama Y, Yamamura T, Yokoyama S, Shiota S, Okamoto Y, Miyake Y, Ogata A, Kunisato Y, Shimoda H, Kawakami N, Furukawa T A, Yamawaki S	4. 巻 14
2. 論文標題 Enduring effects of a five-week behavioral activation program for subthreshold depression among late adolescents: an exploratory randomized controlled trial	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6. 最初と最後の頁 2633-2641
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2147/NDT.S172385	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mori A, Okamoto Y, Okada G, Takagaki K, Takamura M, Jinnin R, Ichikawa N, Yamamura T, Yokoyama S, Shiota S, Yoshino A, Miyake Y, Okamoto Y, Matsumoto M, Matsumoto K, Yamawaki S	4. 巻 4
2. 論文標題 Effects of behavioral activation on the neural circuit related to intrinsic motivation.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BJPsych Open	6. 最初と最後の頁 317-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1192/bjo.2018.40	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morimoto Y, Yamasaki S, Ando S, Koike S, Fujikawa S, Kanata S, Endo K, Nakanishi M, Hatch SL, Richards M, Kasai K, Hiraiwa-Hasegawa M, Nishida A	4. 巻 8(4)
2. 論文標題 Purpose in life and tobacco use among community-dwelling mothers of early adolescents	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e020586
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2017-020586	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Kirihara K, Tada M, Nagai T, Fujioka M, Koike S, Suga M, Araki T, Kasai K	4. 巻 195
2. 論文標題 Association between mismatch negativity and global functioning is specific to duration deviance in early stages of psychosis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Schizophrenia Research	6. 最初と最後の頁 378-384
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2017.09.045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakakibara E, Takizawa R, Kawakubo Y, Kuwabara H, Kono T, Hamada K, Okuhata S, Eguchi S, Ishii-Takahashi A, Kasai K	4. 巻 8(6)
2. 論文標題 Genetic influences on prefrontal activation during a verbal fluency task in children: A twin study using near-infrared spectroscopy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Brain and Behavior	6. 最初と最後の頁 e00980
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/brb3.980	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ando S, Nishida A, Usami S, Koike S, Yamasaki S, Kanata S, Fujikawa S, Furukawa TA, Fukuda M, Sawyer SM, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K	4. 巻 238
2. 論文標題 Help-seeking intention for depression in early adolescents: Associated factors and sex differences	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 359-365
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.05.077	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kamiya K, Okada N, Sawada K, Watanabe Y, Irie R, Hanaoka S, Suzuki Y, Koike S, Mori H, Kunimatsu A, Hori M, Aoki S, Kasai K, Abe O	4. 巻 31(7)
2. 論文標題 Diffusional kurtosis imaging and white matter microstructure modeling in a clinical study of major depressive disorder	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 NMR in Biomedicine	6. 最初と最後の頁 e3938
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/nbm.3938	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suga M, Kawakubo Y, Nishimura Y, Hashimoto K, Yumoto M, Kasai K	4. 巻 129(7)
2. 論文標題 Lack of correlation between phonetic magnetic mismatch field and plasma d-serine levels in humans	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Clinical Neurophysiology	6. 最初と最後の頁 1444-1448
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.clinph.2018.04.603	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Kirihara K, Tada M, Nagai T, Fujioka M, Ichikawa E, Ohta K, Tani M, Tsuchiya M, Kanehara A, Morita K, Sawada K, Matsuoka J, Satomura Y, Koike S, Suga M, Araki T, Kasai K	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Electrophysiological evidence for abnormal glutamate-GABA association following psychosis onset	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Translational Psychiatry	6. 最初と最後の頁 211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-018-0261-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujikawa S, Ando S, Nishida A, Usami S, Koike S, Yamasaki S, Morimoto Y, Toriyama R, Kanata S, Sugimoto N, Sasaki T, Furukawa TA, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K	4. 巻 68
2. 論文標題 Disciplinary slapping is associated with bullying involvement regardless of warm parenting in early adolescence	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Adolescence	6. 最初と最後の頁 207-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.adolescence.2018.07.018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okada N, Yahata N, Koshiyama D, Morita K, Sawada K, Kanata S, Fujikawa S, Sugimoto N, Toriyama R, Masaoka M, Koike S, Araki T, Kano Y, Endo K, Yamasaki S, Ando S, Nishida A, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Abnormal asymmetries in subcortical brain volume in early adolescents with subclinical psychotic experiences	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Translational Psychiatry	6. 最初と最後の頁 254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-018-0312-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Kirihara K, Tada M, Nagai T, Fujioka M, Ichikawa E, Ohta K, Tani M, Tsuchiya M, Kanehara A, Morita K, Sawada K, Matsuoka J, Satomura Y, Koike S, Suga M, Araki T, Kasai K.	4. 巻 128(11)
2. 論文標題 Auditory gamma oscillations predict global symptomatic outcome in the early stages of psychosis: A longitudinal investigation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Clinical Neurophysiology	6. 最初と最後の頁 2268-2275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.clinph.2018.08.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Yamashita F, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Kelly S, Jahanshad N, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Donohoe G, Thompson PM, Kasai K, Hashimoto R	4. 巻 202
2. 論文標題 Role of frontal white matter and corpus callosum on social function in schizophrenia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Schizophrenia Research	6. 最初と最後の頁 180-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2018.07.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Satomura Y, Sakakibara E, Takizawa R, Koike S, Nishimura Y, Sakurada H, Yamagishi M, Shimojo C, Kawasaki S, Okada N, Matsuoka J, Kinoshita A, Jinde S, Kondo S, Kasai K	4. 巻 243
2. 論文標題 Severity-dependent and -independent brain regions of major depressive disorder: A long-term longitudinal near-infrared spectroscopy study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 249-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.09.029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura M, Takahashi T, Takayanagi Y, Sasabayashi D, Katagiri N, Sakuma A, Obara C, Koike S, Yamasue H, Furuichi A, Kido M, Nishikawa Y, Noguchi K, Matsumoto K, Mizuno M, Kasai K, Suzuki M	4. 巻 -
2. 論文標題 Surface morphology of the orbitofrontal cortex in individuals at risk of psychosis: a multicenter study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00406-018-0890-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Todokoro A, Tanaka SC, Kawakubo Y, Yahata N, Ishii-Takahashi A, Nishimura Y, Kano Y, Ohtake F, Kasai K	4. 巻 72
2. 論文標題 Deficient neural activity subserving decision-making during reward waiting time in intertemporal choice in adult attention-deficit hyperactivity disorder	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 580-590
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12668	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okada N, Ando S, Sanada M, Hirata-Mogi S, et al.	4. 巻 -
2. 論文標題 The population-neuroscience study of the Tokyo TEEN Cohort (pn-TTC): a cohort longitudinal study to explore the neurobiological substrates of adolescent psychological and behavioral development.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12814	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamasaki S, Ando S, Richards M, Hatch SL, Koike S, Fujikawa S, Kanata S, Endo K, Morimoto Y, Arai M, Okado H, Usami S, Furukawa TA, Hiraiwa-Hasegawa M, Kasai K, Nishida A	4. 巻 18
2. 論文標題 Maternal diabetes in early pregnancy, and psychotic experiences and depressive symptoms in 10-year-old offspring: A population-based birth cohort study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Schizophrenia Research	6. 最初と最後の頁 30704-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2018.12.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okada N, Yahata N, Koshiyama D, Morita K, Sawada K, Kanata S, Fujikawa S, Sugimoto N, Toriyama R, Masaoka M, Koike S, Araki T, Kano Y, Endo K, Yamasaki S, Ando S, Nishida A, Hiraiwa-Hasegawa M, Edden RAE, Barker PB, Sawa A, Kasai K	4. 巻 9
2. 論文標題 Neurometabolic and functional connectivity basis of prosocial behavior in early adolescence.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 732
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-38355-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morishima R, Ando S, Araki T, Usami S, Kanehara A, Tanaka S, Kasai K	4. 巻 273
2. 論文標題 The course of chronic and delayed onset of mental illness and the risk for suicidal ideation after the Great East Japan Earthquake of 2011: A community-based longitudinal study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry Research	6. 最初と最後の頁 171-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psychres.2018.12.151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Ando S, Usami S, Matsubayashi T, Ueda M, Koike S, Yamasaki S, Fujikawa S, Sasaki T, Hiraiwa-Hasegawa M, Patton G, Kasai K, Nishida A	4. 巻 14(3)
2. 論文標題 Age relative to school class peers and emotional well-being in 10-year-olds.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0214359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0214359	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 藤野陽生、住吉チカ、安田由華、山森英長、藤本美智子、福永雅喜、三浦健一郎、竹林佑人、岡田直大、磯村周一、河野直子、豊巻敦人、久我弘典、磯部昌憲、大矢一登、岡久祐子、高木学、橋本直樹、加藤正樹、鬼塚俊明、上野雄文、大沼徹、笠井清登、尾崎紀夫、住吉太幹、井村修、橋本亮太、COCORO	4. 巻 120(4)
2. 論文標題 統合失調症患者における認知機能障害の推定：多施設共同研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 255-261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kiyoto Kasai & Masato Fukuda	4. 巻 3
2. 論文標題 Science of recovery in schizophrenia research: brain and psychological substrates of personalized value	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 npj Schizophrenia	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41537-017-0016-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kasai K, Ando S, Kanehara A, Kumakura Y, Kondo S, Fukuda M, Kawakami N, Higuchi T	4. 巻 4
2. 論文標題 Strengthening community mental health services in Japan.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Lancet Psychiatry	6. 最初と最後の頁 268-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/S2215-0366(16)30373-X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金原明子	4. 巻 261
2. 論文標題 ガイダンス・ガイドライン 診療・支援の基本姿勢をガイダンスから学ぶ統合失調症UPDATE - 脳・生活・人生の統合的理解にもとづく“価値医学”の最前線	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 953-959
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugawara H, Murata Y, Ikegame T, Sawamura R, Shimanaga S, Takeoka Y, Saito T, Ikeda M, Yoshikawa A, Nishimura F, Kawamura Y, Kakiuchi C, Sasaki T, Iwata N, Hashimoto M, Kasai K, Kato T, Bundo M, Iwamoto K.	4. 巻 in press
2. 論文標題 DNA methylation analyses of the candidate genes identified by a methylome-wide association study revealed common epigenetic alterations in schizophrenia and bipolar disorder.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12645.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Yamashita F, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Ohi K, Fujino H, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R.	4. 巻 19
2. 論文標題 Role of subcortical structures on cognitive and social function in schizophrenia.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sci Rep.	6. 最初と最後の頁 1183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-18950-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikawa A, Nishimura F, Inai A, Eriguchi Y, Nishioka M, Takaya A, Tochigi M, Kawamura Y, Umekage T, Kato K, Sasaki T, Ohashi Y, Iwamoto K, Kasai K, Kakiuchi C.	4. 巻 72
2. 論文標題 Mutations of the glycine cleavage system genes possibly affect the negative symptoms of schizophrenia through metabolomic profile changes.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 168-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12628	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Kirihara K, Tada M, Nagai T, Fujioka M, Koike S, Suga M, Araki T, Kasai K.	4. 巻 in press
2. 論文標題 Association between mismatch negativity and global functioning is specific to duration deviance in early stages of psychosis.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Schizophr Res	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2017.09.045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikawa A, Nishimura F, Inai A, Eriguchi Y, Nishioka M, Takaya A, Tochigi M, Kawamura Y, Umekage T, Kato K, Sasaki T, Kasai K, Kakiuchi C.	4. 巻 5
2. 論文標題 Novel rare variations in genes which regulate the developmental change in N-Methyl-D-Aspartate receptor in patients with schizophrenia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Hum Genome	6. 最初と最後の頁 17056
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/hgv.2017.56.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Yamashita F, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Ohi K, Fujino H, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R.	4. 巻 8
2. 論文標題 Subcortical association with memory performance in schizophrenia: a structural magnetic resonance imaging study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Transl Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-017-0069-3.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koike S, Satomura Y, Kawasaki S, Nishimura Y, Kinoshita A, Sakurada H, Yamagishi M, Ichikawa E, Matsuoka J, Okada N, Takizawa R, Kasai K.	4. 巻 71
2. 論文標題 Application of functional near infrared spectroscopy as supplementary examination for diagnosis of clinical stages of psychosis spectrum.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 794-806
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12551.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Kirihara K, Tada M, Nagai T, Koike S, Suga M, Araki T, Kasai K.	4. 巻 190
2. 論文標題 Duration and frequency mismatch negativity shows no progressive reduction in early stages of psychosis.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Schizophr Res	6. 最初と最後の頁 32-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2017.03.015.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sasabayashi D, Takayanagi Y, Takahashi T, Koike S, Yamasue H, Katagiri N, Sakuma A, Obara C, Nakamura M, Furuichi A, Kido M, Nishikawa Y, Noguchi K, Matsumoto K, Mizuno M, Kasai K, Suzuki M.	4. 巻 82
2. 論文標題 Increased Occipital gyrification and development of psychotic disorders in individuals with an at-risk mental state: a multicenter study.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Biol Psychiatry	6. 最初と最後の頁 737-745
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.biopsych.2017.05.018.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kanehara A, Kotake R, Miyamoto Y, Kumakura Y, Morita K, Ishiura T, Shimizu K, Fujieda Y, Ando S, Kondo S, Kasai K.	4. 巻 7
2. 論文標題 The Japanese version of the questionnaire about the process of recovery: development and validity and reliability testing.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-017-1520-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kondo S, Kumakura Y, Kanehara A, Nagato D, Ueda T, Matsuoka T, Tao Y, Kasai K.	4. 巻 3
2. 論文標題 Premature deaths among individuals with severe mental illness after discharge from long-term hospitalization in Japan: a naturalistic observation during a 24-year period.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BJPsych Open	6. 最初と最後の頁 193-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1192/bjpo.bp.117.004937.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Higuchi Y, Sumiyoshi T, Seo T, Suga M, Takahashi T, Nishiyama S, Komori Y, Kasai K, Suzuki M.	4. 巻 7
2. 論文標題 Associations between daily living skills, cognition, and real-world functioning across stages of schizophrenia; A study with the Schizophrenia Cognition Rating Scale Japanese version.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Schizophr Res Cogn	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.scog.2017.01.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagai T, Kirihara K, Tada M, Koshiyama D, Koike S, Suga M, Araki T, Hashimoto K, Kasai K.	4. 巻 7
2. 論文標題 Reduced mismatch negativity is associated with increased plasma level of glutamate in first-episode psychosis.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Sci Rep	6. 最初と最後の頁 2258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-02267-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawada K, Kanehara A, Sakakibara E, Eguchi S, Tada M, Satomura Y, Suga M, Koike S, Kasai K.	4. 巻 71
2. 論文標題 Identifying neurocognitive markers for outcome prediction of global functioning in ultra-high-risk for psychosis and first episode psychosis.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 318-327
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12522.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujino H, Sumiyoshi C, Yasuda Y, Yamamori H, Fujimoto M, Fukunaga M, Miura K, Takebayashi Y, Okada N, Isomura S, Kawano N, Toyomaki A, Kuga H, Isobe M, Oya K, Okahisa Y, Takaki M, Hashimoto N, Kato M, Onitsuka T, Ueno T, Ohnuma T, Kasai K, Ozaki N, Sumiyoshi T, Imura O, Hashimoto R; for COCORO.	4. 巻 71
2. 論文標題 Estimated cognitive decline in patients with schizophrenia: A multicenter study.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 294-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12474	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morita K, Miura K, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Iwase M, Kasai K, Hashimoto R.	4. 巻 71
2. 論文標題 Eye movement as a biomarker of schizophrenia: using an integrated eye movement score.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 104-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12460.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Kirihara K, Tada M, Nagai T, Koike S, Suga M, Araki T, Kasai K	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Duration and frequency mismatch negativity shows no progressive reduction in early stages of psychosis	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Schizophrenia Research	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2017.03.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawada K, Kanehara A, Eguchi S, Tada M, Satomura Y, Suga M, Koike S, Kasai K	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Identifying neurocognitive markers for outcome prediction of global functioning in ultra-high-risk for psychosis and first episode psychosis.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12522	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kanehara A, Ando S, Araki T, Usami S, Kuwabara H, Kano Y, Kasai K	4. 巻 2
2. 論文標題 Trends in psychological distress and alcoholism after The Great East Japan Earthquake of 2011	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 SSM - Population Health	6. 最初と最後の頁 807-812
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ssmph.2016.10.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakakibara E, Homae F, Kawasaki S, Nishimura Y, Takizawa R, Koike S, Kinoshita A, Sakurada H, Yamagishi M, Nishimura F, Yoshikawa A, Inai A, Nishioka M, Eriguchi Y, Matsuoka J, Satomura Y, Okada N, Kakiuchi C, Araki T, Kan C, Umeda M, Shimazu A, Uga M, Dan I, Hashimoto H, Kawakami N, Kasai K	4. 巻 142
2. 論文標題 "Detection of resting state functional connectivity using partial correlation analysis: A study using multi-distance and whole-head probe near-infrared spectroscopy"	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 NeuroImage	6. 最初と最後の頁 590-601
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuroimage.2016.08.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujikawa S, Ando S, Shimodera S, Koike S, Usami S, Toriyama R, Kanata S, Sasaki T, Kasai K, Okazaki Y, Nishida A	4. 巻 11
2. 論文標題 The Association of Current Violence from Adult Family Members with Adolescent Bullying Involvement and Suicidal Feelings	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Plos One	6. 最初と最後の頁 e0163707
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0163707	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kasai K, Fukuda M	4. 巻 3
2. 論文標題 Science of recovery in schizophrenia research: brain and psychological substrates of personalized value	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 npj Schizophrenia	6. 最初と最後の頁 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41537-017-0016-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kasai K, Ando S, Kanehara A, Kumakura Y, Kondo S, Fukuda M, Kawakami N, Higuchi T	4. 巻 4
2. 論文標題 Strengthening community mental health services in Japan.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Lancet Psychiatry	6. 最初と最後の頁 268-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/S2215-0366(16)30373-X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ando S, Kuwabara H, Araki T, Kanehara A, Tanaka S, Morishima R, Kondo S, Kasai K	4. 巻 25
2. 論文標題 Mental health problems in a community after the Great East Japan Earthquake in 2011: a systematic review	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Harvard Review of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 15-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/HRP.0000000000000124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠井 清登	4. 巻 118
2. 論文標題 リカバリーの意味とその科学	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 744-749
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計73件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 17件)

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 新学術領域研究「自己制御精神」「思春期主体価値」の構想・申請・運営の実際
3. 学会等名 第16回JANSセミナー (WEB)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 思春期の脳とこころ
3. 学会等名 第38回日本小児心身医学会
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 藤井綾香、村田唯、金田渉、藤川慎也、池亀天平、仲地ゆたか、趙治磊、神出誠一郎、笠井清登、文東美紀、岩本和也
2. 発表標題 コホート研究における唾液試料を用いたエピゲノム解析の有用性の検討
3. 学会等名 第42回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤井綾香、金田渉、藤川慎也、村田唯、池亀天平、笠井清登、文東美紀、岩本和也
2. 発表標題 コホート研究での DNAメチル化解析における唾液試料の有用性
3. 学会等名 第41回日本生物学的精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takagaki T, Yokoyama S, Jinnin R, Mori A, Okamoto Y, Miyake Y, Okamoto Y
2. 発表標題 What are factors that affect the sustainable effect of behavioral activation: one year follow-up survey.
3. 学会等名 The 9th World Congree of Behavioral and Cognitive Therapies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nochi M
2. 発表標題 Understanding “Pre-narrative narratives” : Use of photographs to infer the individual 's lived experience.
3. 学会等名 Qualitative Methods Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 能智正博
2. 発表標題 心理臨床をテーマに質的研究法を学ぶ
3. 学会等名 日本心理臨床学会第38回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishijima T, Nochi M & Omi Y
2. 発表標題 How are we getting pleasure from living with people with severe disabilities?? 晒n analysis of family members narratives on their adolescence
3. 学会等名 MAXQDA International Conference 2020. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Okada N, Yahata N, Koike S, Ando S, Nishida A, Kasai K
2. 発表標題 Neurometabolic basis of subclinical psychotic experiences in early adolescents.
3. 学会等名 AsCNP (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fukuda M
2. 発表標題 The collaborative team for the co-productive guidance: A co-productive development of a practical guidance for patient-centered and life-oriented recovery of schizophrenia in Japan.
3. 学会等名 7th European Conference on Schizophrenia Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Okada N, Yahata N, Koike S, Ando S, Nishida A, Kasai K
2 . 発表標題 Neurometabolic basis of subclinical psychotic experiences in early adolescents.
3 . 学会等名 7th European Conference on Schizophrenia Research ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kanehara A, Koike H, Fujieda Y, Yajima S, Kabumoto A, Morita K, Kumakura Y, Kanata S, Nochi M, Kasai K
2 . 発表標題 The concept and facilitators of personal recovery for mental health service users in Japan.
3 . 学会等名 7th European Conference on Schizophrenia Research ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kasai K, Kwon JS
2 . 発表標題 Personalized intervention in psychiatric disorders: bio-typing neuromodulation and response prediction.
3 . 学会等名 7th BESETO International Psychiatry Conference ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Morishima R, Yamasaki S, Ando S, Shimodera S, Ojio Y, Okazaki Y, Kasai K, Sasaki T, Nishida A
2 . 発表標題 Sleep duration and psychotic symptoms in adolescents: Findings from the population-based study.
3 . 学会等名 7th BESETO International Psychiatry Conference ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 発達精神病理学の視点から -From the viewpoint of developmental psychopathology
3. 学会等名 SCBR (Schizophrenia Clinical and Basic Research) FORUM 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 思春期：どう生きるかをなやみ、ためす時期
3. 学会等名 東京都医学総合研究所2019年度第8回都民講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 Adolescent mental health (思春期精神保健)
3. 学会等名 Mental Health Data Science Symposium
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安藤俊太郎、西田淳志、山崎修道、笠井清登
2. 発表標題 児童思春期における微量なリチウム摂取とメンタルヘルス
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 ライフコースにおける思春期・AYA世代の意義
3. 学会等名 2019年度近未来医療フォーラム 第9回公開シンポジウム「人生100年時代、21世紀型社会を見据えたライフコースアプローチ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 人生行動科学としての精神医学
3. 学会等名 名医に学ぶセミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎修道、安藤俊太郎、遠藤香織、小池進介、長谷川真理子、笠井清登、西田淳志
2. 発表標題 思春期発来前後での思春期精神病症状体験と自殺関連行動・抑うつ症状の関係～思春期出生コホートによるエビデンス
3. 学会等名 第14回日本統合失調症学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 人はどう生きるかの科学：思春期の子どもを対象とする主体価値発展学の研究を通して
3. 学会等名 ラジオ日経「小児科診療UP-to-DATE」
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Koike S, Sakakibara E, Satomura Y, Sakurada H, Yamagishi M, Matsuoka J, Okada N, Kasai K
2 . 発表標題 The difference in brain activity of the prefrontal cortex between schizophrenia, bipolar disorder, and major depression.
3 . 学会等名 WFSBP Asia Pacific Regional Congress of Biological Psychiatry ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Murata Y, Bundo M, Ueda J, Ohnishi A, Kubota-Sakashita M, Ikegame T, Suhara T, Kasai K, Kato T, Iwamoto K
2 . 発表標題 Investigation of abnormal molecular pathways in LINE-1 regulation in the brain using embryonic poly(I:C) model mouse.
3 . 学会等名 WFSBP Asia Pacific Regional Congress of Biological Psychiatry ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Okada N, Hashimoto R, Ozaki N, Kasai K
2 . 発表標題 Circuits/physiology biomarkers based on RDoC.
3 . 学会等名 WFSBP Asia Pacific Regional Congress of Biological Psychiatry ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Araki T, Kirihara K, Koshiyama D, Nagai T, Tada M, Fujioka M, Usui K, Kasai K
2 . 発表標題 Mismatch negativity in schizophrenia.
3 . 学会等名 WFSBP Asia Pacific Regional Congress of Biological Psychiatry ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Kasai K
2. 発表標題 Neuroimaging and neurophysiological investigations into schizophrenia.
3. 学会等名 RIKEN CBS Summer Program 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 思春期のこころの成長と不調からの回復.
3. 学会等名 脳とこころの研究 第4回公開シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 閾値下精神病体験を認める思春期早期の児における脳皮質下体積の左右バランスの変化に関する検討.
3. 学会等名 脳とこころの研究 第4回公開シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹林大樹、高柳陽一郎、高橋努、小森祐子、片桐直之、佐久間篤、小原千佳、小池進介、中村美保子、古市厚志、木戸幹雄、西川祐美子、野口京、山末英典、松本和紀、水野雅文、笠井清登、鈴木道雄
2. 発表標題 ARMS群における大脳皮質厚の変化と機能的転帰との関連
3. 学会等名 第22回日本精神保健・予防学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 多田真理子、小池進介、笠井清登
2. 発表標題 今後の多施設共同研究における早期精神病の評価・診断のあり方.
3. 学会等名 第22回日本精神保健・予防学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 人生行動科学にもとづく統合失調症の理解と支援
3. 学会等名 第4回九州DPAフォーラム(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 あなたの価値観を大切にすると統合失調症の新しい理解と支援
3. 学会等名 第53回コンボ亭月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日高洋介、池亀天平、菅原裕子、清田恵美、笠井清登、石川智久、橋本衛、竹林実、文東美紀、岩本和也
2. 発表標題 5HTTLPRのハイスループットジェノタイピング法による新規多型の同定.
3. 学会等名 第48回日本神経精神薬理学会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 精神疾患のリバーストランスレーショナルリサーチ.
3. 学会等名 第34回Wakoワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笹林大樹、高柳陽一郎、高橋努、小森祐子、西山志満子、片桐直之、佐久間篤、小原千佳、小池進介、山末英典、中村美保子、古市厚志、木戸幹雄、西川祐美子、笠井清登、松本和紀、水野雅文、鈴木道雄.
2. 発表標題 精神病発症危険群における脳回形成の変化と認知機能障害との関連.
3. 学会等名 第18回精神疾患と認知機能研究会.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤岡真生、切原賢治、越山太輔、多田真理子、永井達哉、臼井香、小池進介、管心、荒木剛、笠井清登
2. 発表標題 ミスマッチ陰性電位は精神病ハイリスク者の寛解をよび認知機能を予測する.
3. 学会等名 第18回精神疾患と認知機能研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kasai K
2. 発表標題 Neurophysiological investigations into early psychosis using translatable brain markers.
3. 学会等名 The 40th Annual Meeting of Japanese Society of Biological Psychiatry
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kiyoto Kasai, Gregory A. Light
2 . 発表標題 Mismatch negativity as a translatable biomarker bridging a gap between animal model and human diseases.
3 . 学会等名 The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society,
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Koshiyama D, Kirihara K, Tada M, Nagai T, Fujioka M, Usui K, Koike S, Suga M, Araki T, Kasai K
2 . 発表標題 MMN in human adolescence and in early psychosis.
3 . 学会等名 The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society,
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kunii N, Ishishita Y, Shimada S, Tada M, Kirihara K, Uka T, Kasai K, Saito N
2 . 発表標題 Human ECoG study on the lateral superior temporal gyrus: deviance detection versus adaptation.
3 . 学会等名 The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society,
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Bundo M, Ueda J, Nishioka M, Kiyota E, Kasai K, Kato T, Iwamoto K
2 . 発表標題 Developing a method for detection of LINE-1 and its application to single brain cells.
3 . 学会等名 The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society,
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Morita K, Miura K, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Kudo N, Azechi H, Okada N, Koshiyama D, Kawakami S, Morita S, Ikeda M, Kasai K, Hashimoto R
2. 発表標題 Eye movement abnormalities and their association with cognitive impairments in schizophrenia.
3. 学会等名 The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society,
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takamura T, Nakamura T, Yoshinaga K, Ogata Y, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto R, Hanakawa T
2. 発表標題 Resting-state functional connectivity MRI classification of major depressive disorder in multi-site data.
3. 学会等名 The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society,
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tada M, Kirihara K, Ishishita Y, Kunii N, Shimada S, Ibayashi K, Saito N, Uka T, Kasai K
2. 発表標題 Localization and characteristics of auditory steady-state response (ASSR) in the human electrocorticogram (ECoG).
3. 学会等名 The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society,
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanaka T, Nishimura F, Kakiuchi C, Kasai K, Kimura M, Haruno M
2. 発表標題 Interactive effects of OXTR and GAD1 on envy-associated behaviors and neural responses.
3. 学会等名 The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society,
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Zhao Z, Jinde S, Koike S, Yoshikawa A, Satomura Y, Bundo M, Iwamoto K, Kakiuchi C, Kasai K
2. 発表標題 Involvement of microRNAs in first-episode psychosis.
3. 学会等名 The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society,
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田欣吾、榊原英輔、金原明子、小池春菜、藤枝由美子、管心、宮本有紀、福田正人、笠井清登
2. 発表標題 統合失調症患者に対する臺式簡易客觀的精神指標 (UBOM) の有用性についての検討
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会学術總會
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 思春期・AYA世代支援の科学.
3. 学会等名 日本小児科学会・第13回思春期医学臨床講習会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金原明子、熊倉陽介、笠井清登
2. 発表標題 シンポジウム2: 統合失調症はどこまで治るか 「リカバリーの視点から」
3. 学会等名 第13回日本統合失調症学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kanehara A, Kumakura, Kanata, Fujieda Y, Koike H, Morita K, Yamaguchi S, Miyamoto Y, Nochi M, Fukuda M, Kasai K
2. 発表標題 Development of a framework of recovery for mental health service users in Japan
3. 学会等名 6th BESETO (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 A. Kanehara, Y. Kumakura, S. Kanata, Y. Fujieda, H. Koike, K. Morita, S. Yamaguchi, Y. Miyamoto, M. Nochi, M. Fukuda, K. Kasai
2. 発表標題 Development of a framework of recovery for mental health service users in Japan
3. 学会等名 6th European Conference on Schizophrenia Research (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kumakura Y, Kanehara A, Kanata S, Natsukari I, Kondo S, Ichihashi K, Suga M, Miyamoto Y, Ikebuchi E, Fukuda M, Kasai K
2. 発表標題 Development of a question prompt sheet for schizophrenia: dissemination strategies to raise awareness of shared decision making (SDM) in Japan
3. 学会等名 6th European Conference on Schizophrenia Research (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 笠井清登・金原明子・熊倉陽介
2. 発表標題 リカバリーをどのように共同創造できるのかー主体価値の視点からHow can we co-product personal recovery? From the viewpoint of personalized valueシンポジウム 28 ( S28-3) 統合失調症のリカバリーガイドライン 当事者との coproduction (共同創造)
3. 学会等名 第113回 日本精神神経学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤枝由美子、石橋綾、矢島明佳、清水希実子、管心、金原明子、石浦朋子、宮本有紀、近藤伸介、笠井清登
2. 発表標題 ピアスタッフ導入に向けての取り組み：A病院デイケアでのニーズ調査
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土屋麻衣子、谷元子、金原明子、太田和佐、小池進介、笠井清登
2. 発表標題 「こころのリスク外来」メール受診相談におけるPRIME-Jスクリーニングの活用
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 太田和佐、谷元子、土屋麻衣子、金原明子、多田真理子、管心、小池進介、笠井清登
2. 発表標題 テキストマイニング分析を用いた精神科医療機関への支援要請過程に関する調査
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江口聡、管心、藤枝由美子、夏堀龍暢、山崎修道、笠井清登
2. 発表標題 A病院におけるメタ認知訓練法の効果の検討
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清水希実子、塩原裕理、藤枝由美子、飯田美恵、金原明子、管心、芳賀信彦、笠井清登
2. 発表標題 東京大学医学部附属病院における精神障害者試験的雇用の実践報告
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坂井隆太郎、松本衣美、宮本有紀、小川亮、熊倉陽介、森田康子、千葉理恵、西大輔、山口創生、島津明人、近藤伸介、笠井清登
2. 発表標題 リカバリーを支援するプログラムについて：英国に置けるリカバリーカレッジ運営の実態から
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本衣美、坂井隆太郎、宮本有紀、小川亮、熊倉陽介、森田康子、千葉理恵、西大輔、山口創生、島津明人、近藤伸介、笠井清登
2. 発表標題 英国リカバリーカレッジの効果について：文献レビュー
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮本有紀、小川亮、坂井隆太郎、松本衣美、山田理絵、熊倉陽介、森田康子、千葉理恵、山口創生、西大輔、島津明人、近藤伸介、笠井清登
2. 発表標題 主体的参加によるリカバリー促進実践：英国リカバリーカレッジの提供する講座内容の分析
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 千葉理恵、宮本有紀、山口創生、西大輔、島津明人、近藤伸介、笠井清登
2. 発表標題 精神保健サービスおよびサービスに関わる人のリカバリー志向性に関連する評価尺度：文献レビュー
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 管心、西村幸香、川久保友紀、湯本真人、笠井清登
2. 発表標題 統合失調症患者を対象に脳磁計を用いた単一課題中のduration/frequency MMNの測定
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 越山太輔、切原賢治、多田真理子、永井達哉、荒木剛、笠井清登
2. 発表標題 精神病性障害の早期段階に置けるミスマッチ陰性電位の縦断研究
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎修道、安藤俊太郎、小池進介、藤川慎也、金田渉、遠藤香織、森本裕子、宇佐美慧、長谷川眞理子、笠井清登、西田淳志
2. 発表標題 母体の妊娠早期糖尿病罹患と10歳児の精神病症状体験・抑うつとの縦断的関連
3. 学会等名 第12回日本統合失調症学会
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 「新学術領域研究：思春期主体価値」紹介
3. 学会等名 次世代脳プロジェクト：冬のシンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 統合失調症の病態解明へのアプローチ
3. 学会等名 第49回精神神経系薬物治療研究報告会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 安藤俊太郎、西田淳志、宇佐美慧、小池進介、山崎修道、金田渉、藤川慎也、古川壽亮、長谷川真理子、笠井清登
2. 発表標題 思春期メンタルヘルスと援助希求
3. 学会等名 第20回日本精神保健・予防学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 笠井清登
2. 発表標題 思春期主体価値学にもとづく統合失調症の理解と支援
3. 学会等名 第11回山口県統合失調症研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 池亀天平、文東美紀、菅原裕子、小池進介、近藤健治、池田匡志、才田晴美、浅井竜朗、吉川茜、西村文親、河村代志也、垣内千尋、佐々木司、石郷岡純、岩田仲生、加藤忠史、笠井清登、岩本和也
2. 発表標題 双極性障害および統合失調症患者末梢血で認められるSLC6A4プロモーターの高メチル化
3. 学会等名 第38回日本生物学的精神医学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 笹林大樹、高柳陽一郎、小池進介、山末英典、片桐直之、佐久間篤、中村美保子、高橋努、古市厚志、木戸幹雄、西川祐美子、松本和紀、水野雅文、笠井清登、鈴木道雄
2. 発表標題 At-risk mental stateにおける脳回の過形成
3. 学会等名 第38回日本生物学的精神医学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菅原裕子、文東美紀、池亀天平、近藤健治、池田匡志、岩田仲生、石郷岡純、笠井清登、加藤忠史、岩本和也
2. 発表標題 統合失調症と双極性障害におけるエピゲノム要因の共通性と特異性についての検討
3. 学会等名 第38回日本生物学的精神医学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 藤山直樹、津川律子、堀越 勝、池田暁史、笠井清登	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 224
3. 書名 精神療法トレーニングガイド	

1. 著者名 笠井 清登、岡ノ谷 一夫、能智 正博、福田 正人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 人生行動科学としての思春期学	

1. 著者名 藤山 直樹、笠井 清登、松木 邦裕、中村 紀子、中原 睦美、伊藤 絵美、村井 俊哉、熊谷 晋一郎、熊倉 陽介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩崎学術出版社	5. 総ページ数 384
3. 書名 こころを使うということ	

1. 著者名 笠井清登	4. 発行年 2018年
2. 出版社 精神看護出版	5. 総ページ数 3
3. 書名 自分自身の健康と元気について主導権をにぎること：「WRAPをはじめる」	

1. 著者名 企画編集 笠井清登、宮本有紀、福田正人	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 152
3. 書名 別冊医学のあゆみ・統合失調症UPDATE:脳・生活・人生の統合的理解にもとづく価値医学の最前線	

1. 著者名 望月雅和（編著） 能智正博（監修・解説） 大友りお/櫻坂英子/森脇健介/弓削尚子（著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 現代書館	5. 総ページ数 288
3. 書名 山田わか 生と愛の条件 ケアと暴力・産み育て・国家 【解説】個人の人生の物語から何が読みとれるか	

1. 著者名 笠井清登、村井俊哉、三村将、岡本泰昌、近藤伸介、大島紀人（編）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 診断と治療社	5. 総ページ数 640
3. 書名 精神科研修ノート第二版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

脳・生活・人生の統合的理解にもとづく思春期からの主体価値発展学 <a href="http://value.umin.jp/">http://value.umin.jp/</a>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Personalized Value: Interdisciplinary Approach	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Symposium on Adolescent Health and Personalized Value	開催年 2018年～2018年

国際研究集会 国際思春期科学ワークショップ・特別講演	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 社会構築主義の視点と臨床の現場 Vivien Burr教授をお招きして	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------